

埋文ぞまがた



2007年6月30日
第38号



出前授業

財団法人 山形県埋蔵文化財センター

YAMAGATA PREFECTURAL CENTER FOR ARCHAEOLOGICAL RESEARCH

〒999-3161 山形県上市市弁天二丁目15番1号 TEL 023-672-5301(代) FAX 023-672-5586

ホームページ：<http://www.yamagatamaibun.or.jp>

メールアドレス：kenkyuuka@yamagatamaibun.or.jp

平成19年度の事業概要

1 発掘調査事業

(6月1日現在)

No.	遺跡名	市町村	時代区分	種別	調査期間
1	上の寺遺跡	寒河江市	縄文、平安、中世	集落跡	5/16~9/14
2	天王遺跡(第2次)	南陽市	奈良・平安	集落跡	5/10~11/21
3	上大作裏遺跡(第2次)	南陽市	奈良・平安	集落跡	5/10~7/27
4	檜原遺跡(C区)	南陽市	奈良・平安	集落跡	5/15~7/31
5	加藤屋敷遺跡(2次)	南陽市	奈良・平安	集落跡	7/17~9/30
6	天矢場遺跡	南陽市	平安	集落跡	5/10~7/13 10/1~10/23
7	川前2遺跡(第3次)	山形市	古墳、奈良・平安、中世	集落跡	5/14~9/7
8	堤屋敷遺跡	米沢市	縄文、中世	集落跡	5/8~11/16
9	下屋敷遺跡	米沢市	縄文、中世	集落跡	5/8~11/16
10	矢馳A遺跡(第4次)	鶴岡市	古墳、奈良・平安、中世	集落跡	5/9~9/11
11	興屋川原遺跡(第4次)	鶴岡市	古墳、奈良・平安	集落跡	7/2~8/31
12	玉作1遺跡(第3次)	鶴岡市	古墳、平安	集落跡	5/9~7/11
13	岩崎遺跡(第2次)	鶴岡市	古墳~中世	集落跡	9/3~11/7
14	川内袋遺跡	鶴岡市	縄文	集落跡	5/8~12/14
15	行司免遺跡(第4次)	鶴岡市	奈良・平安	集落跡	6/4~11/9

今年度は、国土交通省・県農林水産部から委託を受け、15件の発掘調査を実施しています。

また、昨年度までに現地調査を終了した10遺跡については整理・報告書作成し、4遺跡の報告書を刊行します。

No.	遺跡名	市町村	業務内容
1	中落合遺跡	南陽市	報告書作成・刊行
2	百刈田遺跡	南陽市	報告書作成
3	中山城跡	上山市	報告書作成
4	太郎水野2遺跡 外	金山町	報告書作成・刊行
5	山ノ下稻荷山館跡遺跡	米沢市	報告書作成・刊行
6	下叶水遺跡	小国町	報告書作成
7	万治ヶ沢遺跡	鶴岡市	報告書作成
8	玉作遺跡	鶴岡市	報告書作成
9	南田遺跡	鶴岡市	報告書作成
10	高瀬山遺跡HO(2期)	寒河江市	報告書作成・刊行



2 研究・普及事業

埋蔵文化財に関する研究と、保護思想の普及を目的とした活動を行っています。

(1) 調査説明会

発掘調査の成果を広く公開するために、調査を行った遺跡について現地で説明会を開きます。また、出土した遺物の展示も行います。

(2) 発掘調査報告会

平成19年度の発掘調査報告会は12月8日(土)・9日(日)山形市のビッグウイングにおいて開催します。県内で行われた今年度の発掘調査の成果を、写真や映像を使って報告するほか、出土した遺物の展示も行います。

(3) 広報誌・年報の発行

広報誌「埋文やまがた」を年3回発行し、県内の学校と公民館・図書館などに配布しています。また、センターの一年間の活動内容をまとめた「年報」を発行します。

(4) 研究紀要の刊行

遺跡や遺物など考古学に関する専門的な研究の成果を掲載しています。

(5) 文化財保護思想の普及に関すること

センターでは、出土した文化財の保護と活用を広く県民に周知する目的で、次のようなことを行っています。

- 小・中・高校などにセンターの職員を派遣して、歴史学習や総合的な学習を支援する出前授業
- 出土した文化財や写真、記録類の貸し出し
- センター見学→特別収蔵室(県内各地から出土した遺物の展示室)や整理作業(遺物の復元などの作業)を見学することができます。
- 職場体験事業の受け入れ
豊かな体験活動を通して子ども達に「生きる力」を身につけます。

(6) 今年度の外部展示計画

- ◆県庁1Fロビー展示 世界遺産推進室と共催して展示(5月28日～6月29日)
- ◆東北芸術工科大学との共同展示(8月1日～8月10日)
- ◆山形空港展示(9月中旬)
- ◆文翔館展示
を企画しています。どうぞご覧ください。



職場体験



施設見学



出前授業



調査説明会



発掘調査報告書



発掘調査報告

木製品の保存処理

センターでは、平成17年度から糖アルコールの一種である“ラクチール”を用いた木製品の保存処理を行っています。ラクチールは、乳糖を原料にして作られ、甘味料として食品にも利用されています。処理の工程を簡単にご紹介します。



なぜ保存処理するの？

出土した木製品は、土に埋まっている間に木の成分を失い、多くの水分を含んでいます。木本来の強度も失われ、非常にやわらかい状態になっています。これを、大気にさらすと、木の中の水分が蒸発し、あっという間に縮んだり形が変わってしまいます。

水につけておけば形を保つことができますが、展示や観察、また保管することも困難です。展示や観察できる状態で、より長く後世に伝えるために保存処理を行います。



どんな方法？

まずは、木製品の中の水分と“ラクチール”を置き換える『含浸』という作業を行います。この作業には『含浸槽』という大きなお風呂のような装置を使います。



はじめは30%のラクチール水溶液につけます。ラクチールを完全に溶かしてから含浸槽に入れていきます。



含浸中の仕事は？

箸や椀など小型の木製品では約1ヶ月、井戸杵や柱など大型の場合は半年程かけて行います。時々、ラクチールを加えたりしながら、濃度を80%程まで上げていきます。溶液の濃さは、糖度計で測ることができます。

今日の糖度はいくつかな～？





取り上げ

含浸が終了したら、含浸槽から木製品を取り上げます。続いて、表面のラクチトールを熱湯ですばやく洗い流していきます。濃度80%程になった溶液はドロドロの状態です。



お湯の温度は80℃、
作業中は汗だくです！



乾燥

取り上げた木製品の水分をていねいにふきとり、表面にラクチトールの粉末をまぶしていきます。こうすることで、ラクチトールが早く結晶化します。次に、50℃に設定した乾燥機の中で乾燥させます。

ラクチトールの粉末は小麦粉の
手触りと似ています。



仕上げ

乾燥が終了したら、表面のラクチトールを取り除きます。もう一度、表面を洗い流し、乾燥させれば終了です。



乾燥中は、毎日反転して結晶化を
促進させます。



保存処理後

保存処理が完了すると、水につけた状態で保管する必要がなくなります。また、展示や研究に活用することが出来るようになります。写真や図面では伝わらないものを、実際に手で触れることも可能です。

5月には、上山南小学校の皆さんが見学に来てくれました。

体験学習・出前授業

埋蔵文化財に関する研究と、保護思想の普及を目的とした活動を行っています。

1 **ねらい** 生まれ育った山形に自信をもたせ、山形県人としてのアイデンティティーの芽をはぐくむ。

2 出前授業の4つの柱

地域素材

学区や身近な地域から出土した遺物を活用します。



実物観察

実際に体験することで、昔の人々の知恵と工夫を探ります。



体験活動

本物の土器や石器に触れ、生の迫力を五感で味わえます。



映像資料の活用

パソコンとプロジェクターを使って分かりやすく説明します。



3 出前授業のメニュー

講話

パソコンとプロジェクターを使って、「縄文時代の暮らし」などについて学びます。

学年に応じてわかりやすく説明します。

	体験メニュー	所要時間	備考
1	『遺物(土器や石器など)に触れる』	15分～20分	身近な地域の土器や石器を用います。
2	『火起こし』	20分～30分	『まいぎり』を使って火起こしの体験ができます。
3	『弓矢とばし』	10分～	約5m先の的をねらいます。矢の先には布がまいているので安全です。
4	『石器で野菜切り』	10分～	野菜などの切る材料は学校でご準備ください。
5	『クルミ割り』	10分～	たたき石と凹(くぼみ)石を使って木の実を割ります。
6	『アンギン編み』	70分～	編む大きさによって所要時間が異なります。
7	『勾玉づくり』	60分～90分	勾玉セットは学校でご準備ください。
8	『土器作り』	120分～延べ3日	製作・乾燥・野焼きなどさまざまな工程があります。
9	『縄文クッキー』作り	60分～	どんぐりの粉、山芋の粉、くるみなどで作ります。



縄文服を着て記念撮影



石器はよく切れるね



縄文クッキー作り



的をめがけてや～!

秘宝館



山形県立博物館所蔵

土偶

舟形町・西ノ前遺跡

縄文時代には、土器をはじめ、粘土を焼いているいろいろなものが作られるようになりました。人間をかたどって作られた土偶もそうしたもののひとつです。土偶は、縄文時代早期に現れますが、中期から晩期にかけて特に盛んに作られるようになります。

今回紹介する土偶は、舟形町の西ノ前遺跡から出土したものです。約4,500年前の縄文時代の中期前半から中頃にかけて作られました。高さが45cmあり、安定感のある太く長い脚部と、抽象的に表現された上半身がとてもきれいに調和しています。この土偶は、たくさんの土器や石器が捨てられて折り重なるように出土した場所から、両脚、腰部、胸部、頭部が約5mの範囲に散らばって出土しました。

西ノ前遺跡からはこのほかに47点の土偶が見つかっています。大きさは、5cmに満たないものから、全体が残っていれば、写真の土偶よりもっと大きくなると思われる腰部の破片までさまざまですが、完全な形に復元できたものは、この1点だけでした。これらは、すべて国指定重要文化財となっています。

ほかの遺跡でもそうですが、土偶が完全な形で出土することや、完全に復元できることはとても珍しいことです。このことから、病人の悪いところを土偶のその部分を壊すことによって治すおまじないに使われたという説もあります。また、土偶は女性を現したものとされており、大地からの恵みを象徴するものとも考えられています。いずれにしても、土偶は縄文時代の人々の精神性の高さや豊かさを私たちに教えてくれます。(黒坂雅人)

「埋文やまがた」の購読について

広報誌「埋文やまがた」購読ご希望の方は、当センターまで電話にてお問い合わせ下さい。なお、郵送料はご負担いただけます。

電話 023(672)5301(代表)

編集後記

今号では埋蔵文化財センターの活動内容を多くの皆様にお知らせする目的で保存処理の仕組みや出前授業について掲載いたしました。

文化財保護思想がますます普及していくよう取り組んでまいります。